



医学部生におけるダイバーシティ (男女共同参画、キャリアに関する意識調査)

北海道大学大学院医学研究院呼吸器内科学教室/
北海道大学病院男女共同参画推進室 特任助教

ふるた めぐみ
古田 恵

北海道大学大学院医学研究院呼吸器内科学教室 講師

しみず かおる
清水 薫子

旭川医科大学医学部皮膚科学講座/
復職・子育て・介護支援センター 助教

かんの きょうこ
菅野 恭子

北海道大学大学院医学研究院呼吸器内科学教室 教授

こんの さとし
今野 哲

北海道大学大学院医学研究院
医学教育・国際交流推進センター 教授

たかはし まこと
高橋 誠

旭川医科大学 名誉教授/
復職・子育て・介護支援センター 前センター長

やまもと あけみ
山本 明美

北海道大学病院 病院長/
北海道大学病院男女共同参画推進室 室長

あつみ たつや
渥美 達也

はじめに

近年、多くの大学で男女共同参画部門などが設置されているが、医育大学におけるダイバーシティ環境推進を促す教育の取り入れ方については機関により異なる。現在、北海道大学（北大）医学部においては4年生を対象に、医師としてのキャリアを考えダイバーシティの重要性を伝える授業、旭川医科大学（旭医）医学部ではワークライフバランスというテーマのもとワークライフバランスを保つ上で想定される様々な問題について学ぶ授業が行われている。しかしながら、医学部生におけるダイバーシティの認識についての報告は少ない。そこで、医学部生におけるダイバーシティの現状や対策に対する考えを把握し、男女間でダイバーシティに対する意識に差があるのか検討し、今後の医育教育がどのような変化を必要とするかについて考察し、職場環境の改善案につなげることを目的にアンケート調査を行った。

I. 方法

北大医学部4年生および旭医医学部4年生を対象に、北大では2022年2月、旭医では2022年10月の授業時にダイバーシティに関するアンケート調査を実施した（表1）。北大に関する質問7～9に関して

は北大のみで有効回答とした。アンケート調査は、10～15分程度の実施時間、無記名で行い、回収後、全体集計と同時に男女別の解析も行い特徴を検討した。

II. 結果

1. 回答者について

対象者198人（北大108人／旭医90人）のうち179人（北大92人／旭医87人）から回答が得られ、回答率は90.4%（女性100.0%、男性86.6%）で女性の方が高かった。回答者の性別は女性が31.3%（56人）、男性が68.7%（123人）であった。

2. 育児について

女性医師が育児のため離職することに関して（質問1-1）は、「③医師である前に一個人なのだから、いかなる人生の選択も本人の自由だと思う」が最も多く（全体79.9%、男性82.1%、女性75.0%）、男女間で認識の差は認めなかった。男性医師の育児休暇取得について（質問2-1）は「①好ましいことであり推奨すべきだ」、「②まあ好ましいことだと思う」がそれぞれ59.8%、27.9%と多く、好意的である意見が男女ともに多かった。

3. キャリアについて

管理職志向に関して（質問3）は、「④あまりそう思わない・⑤そう思わない」合わせて全体で43.0%、男性で42.3%、女性で44.6%、「①とてもそう思う・②まあそう思う」の割合は全体で19.6%、女性で10.7%、男性で23.6%と女子学生で低い傾向（ $p=0.066$ ）があるものの、男女ともに管理職志向が低い回答の方が多かった。自分の進路への結婚・出産・家庭生活・育児の影響度（質問4）は「①大きく影響する」が44.7%と回答した人が最も多く、次いで「②まあ影響する」が39.7%と多かった。

4. 性別による役割について

性別による育児・家事・介護の役割の認識（質問5）は、乳児期の育児は「b. やや女性の役割」と認識している割合が男女ともに高く（全体50.8%、男性47.2%、女性58.9%）、それ以外の役割は「c. 同等」と回答した人が、幼児期の育児で74.3%、家事で79.3%、介護で87.2%と最も多かった。

5. ジェンダーギャップ、北海道大学の取り組みについて

ジェンダーギャップに関する認識は世界の中での日本の位置に関して（質問6）は「a. かなり問題だ・b. やや問題だ」と回答した人が最も多く、全体で68.2%、男性で67.5%、女性で92.8%であった。北大内の女性教員比に関して（質問7）は、「a. かなり問題だ・b. やや問題だ」と回答した人が男性で42.6%、女性で73.9%であった。ダイバーシティ推進に関する北大の取り組みに関して（質問8、質問9）は賛成意見が多かった。

III. 考察

本調査からは医学部生の①ワークライフバランス

の尊重意識、②キャリアアップに関する意識の低さ、③ジェンダーギャップに対する男女間の温度差が明らかとなった。女性の離職を個人の自由として認識し、管理職志向すなわちキャリアアップに対し必ずしも積極的ではない意見が多い点は、ワークライフバランスの重要視と関連があるかもしれない。ただ、2012～2013年に日本医師会発行雑誌から選出された読者の各大学で実施された医学部生へのキャリア・家庭についてのアンケートの報告では約8割で男性医師の育児休暇取得について好意的であり、約6割でライフイベントがキャリアへ影響すると考えており、2022年に実施した本アンケートよりも2割程度どちらも少なく¹⁾、世代間の認識にギャップがある可能性が示唆され、今後も経時的な調査が必要であると考えられる。

一方で、このキャリアアップへの意識の低さは、今後の職場環境改善の必要性が示されている可能性がある。管理職になった場合に、自分の希望するワークライフバランスが実現できないという懸念もあるかもしれない。これは管理職への意識のみならず、医師の診療科や地域偏在といったことにも影響を及ぼしている可能性もある。そのため、若い世代の意識の変容に対して果たすべき業務の質・量・形式の最適化の循環が持続可能な医療現場の推進に寄与すると考えられる。例えば、男性育児参加の理解や支援のほか、医師の働き方改革の一環としてタスクシェアリングやオンコール体制を導入する診療科が増えているが、業務の効率化が報告されており²⁾、期待される。

社会的役割やキャリア選択へのライフイベントへの影響度は男女差が認められない一方で、ジェンダーギャップに関する認識や北大内の女性教員比に関しては女子学生では問題であると認識していたが、男子学生では割合は低下し、特に北大内の女性教員比に関しては半数以下であった。大学教育の中でお互いのキャリアの理解やその問題について考えるブレインストーミングなどの参加型授業が必要なのかもしれない。逆差別、ロールモデルの不在といった個別意見も認められたことから、基準の明文化やそれから逸脱しない登用、教員としての業務経験や育成の機会を十分に与える取り組みの強化、ロールモデルの提供³⁾、アンコンシャスバイアスの是正が必要と考えられる。

おわりに

医学部生において社会的役割の認識に関しては男女差を大きく認めず、男性育児に好意的な意見やキャリア選択においてライフイベントが影響するとの意見が男女ともに多く、ワークライフバランスを尊重する意識が高いことが窺えた。さらには男女ともにキャリア志向に関しても必ずしも高くはないことが窺え、若い世代の意識の変容を認識し、職場環境改善の必要性があると考えられる。一方で、ジェン

ダーギャップや女性教員低採用比率に対する問題意識に関しては男女差が認められた。男性育児に関して支援環境を今後さらに整えていく必要があるのと同時に、お互いが納得できるキャリア形成の実現化が求められる。

[COI開示] 本論文に関して筆者らに開示すべきCOI状態はない。

[謝辞] 本研究はダイバーシティ研究環境推進室の「北海道大学ダイバーシティ研究環境実現に向けた研究助成」による支援を受けたものである。

文献

1. 平林慶史 (編): キャリア・家庭についての医学生意識をデータでみる. 日本医師会発行誌「DOCTOR-ASE」2013; 5 : 14-16.
2. 山田貴教, 笹田雄三, 鈴木昌八: 休日入院診療のオンコール制導入は医師の満足度のみならず診療実績の改善をもたらす可能性がある. 日本医師会雑誌2022; 151 : 623-626
3. 国立大学における男女共同参画について. <https://www.janu.jp/janu/gender/> (2024年1月23日閲覧)

表 1. アンケートでの質問内容

質問	選択肢
1 医師免許を持つ女性が育児のために離職することについて、あなたの考えに近いものを選んでください。 1-1. ご自身もしくはパートナーに対してのお考えに近いものを選んでください。 1-2. 同僚に対してのお考えに近いものを選んでください。	1. 医師が不足している中、多くの資源を投じて養成した医師が離職することは防ぐべきだ 2. 育児は大変なものであり、中途半端に仕事を続けるよりむしろ離職する方が良い 3. 医師である前に一人なのだから、いかなる人生の選択も本人の自由だと思う 4. 育児のために離職するような女性は、初めから医学部に入るべきではないと思う
2 男性医師が育児休暇を取得することについて、あなたはどのように思いますか？ 2-1. ご自身もしくはパートナーに対してのお考えに近いものを選んでください。 2-2. 同僚に対してのお考えに近いものを選んでください。	1. 好ましいことであり推奨すべきだ 2. まあ好ましいことだと思う 3. どちらともいえない 4. あまり好ましくないと思う 5. 好ましくないと思う
3 あなたは将来、管理職（教授・部長など）になりたいと思いますか？	1. とてもそう思う 2. まあそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. そう思わない
4 あなたは、自分の臨床研修先や専門分野を選ぶにあたって、結婚・出産・家庭生活・育児といった要素がどの程度影響すると感じますか？	1. 大きく影響する 2. まあ影響する 3. どちらともいえない 4. あまり影響しない 5. 全く影響しない
5 次の各項目は、男女どちらの役割だと感じますか？・あてはまる選択肢を選んでください。 5-1. 乳児期(1歳未満)の育児 5-2. 幼児期(2~5歳)の育児 5-3. 家事(炊事・洗濯・掃除など) 5-4. 親の介護	a. 女性の役割 b. やや女性の役割 c. 同等 d. やや男性の役割 e. 男性の役割
6 現在、わが国の「経済」「政治」「教育」「健康」の4つの分野のデータから作成された男女格差を測るジェンダーギャップ指数(Gender Gap Index: GGI)は、153か国中121位でした。その現状についてあなたはどのように思いますか？	a. かなり問題だ b. やや問題だ c. どちらともいえない d. それほど問題ではない e. 全く問題でない
7 現在、北海道大学の女性教員(専任教員・助手)の比率は13.6%(R2.5.1時点)と低い割合となっています。その現状についてあなたはどのように思いますか？	a. かなり問題だ b. やや問題だ c. どちらともいえない d. それほど問題ではない e. 全く問題でない
8 北海道大学は、女性研究者・外国人研究者・教員の比率を増やすための支援を行っています。このことについてあなたはどのように思いますか？	a. 賛成 b. 反対 c. わからない
9 北海道大学にはダイバーシティ研究環境推進室が存在し、北海道大学病院には男女共同参画推進室があり、支援・環境整備・啓発活動が行われています。このことについてあなたはどのように思いますか？	a. 賛成 b. 反対 c. わからない

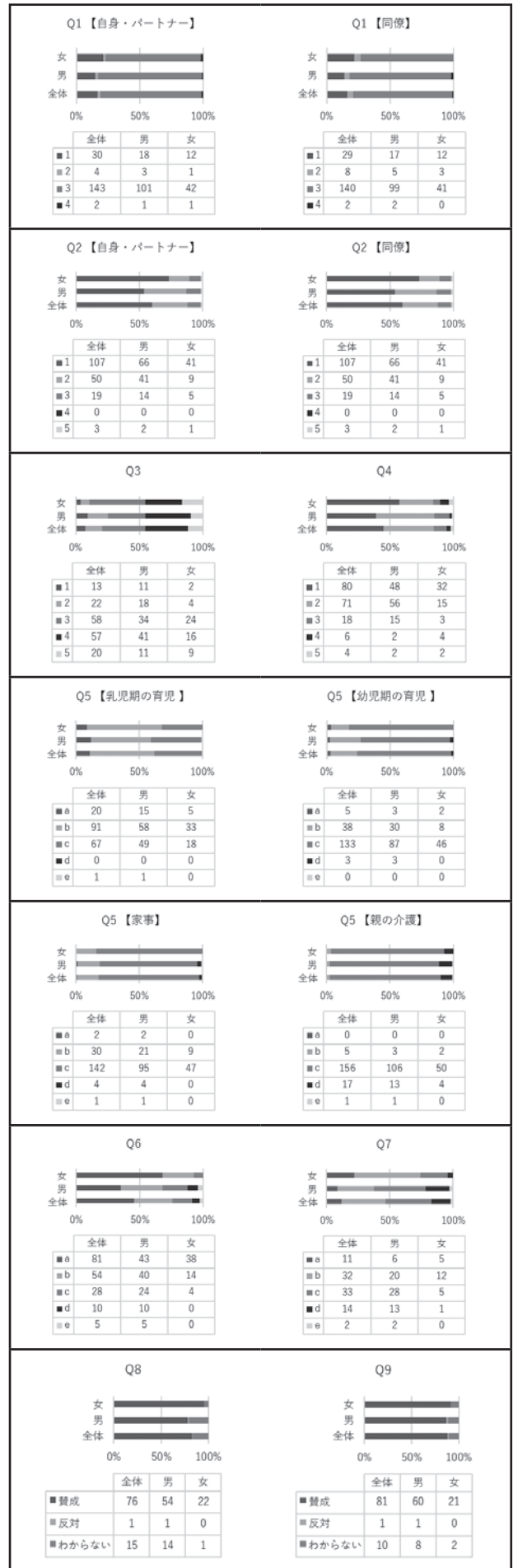


図. 各質問に対する回答内訳 (比率と回答数)